

背伸びした目標と、マイルストーンを置くこと

いおき
IKOI代表 **五百木 進氏** (高校33期)

- 1981年3月 立川高校卒業
- 1986年3月 東京外国語大学外国語学部ドイツ語学科卒業
- 1986年4月 株式会社電通入社 営業局で多数の広告主を担当
その後雑誌局にて多数の出版社を担当、デジタル雑誌サイトの立ち上げを担当
アウト・オブ・ホーム・メディア局計画推進部長、局長次、局長補を経て、
- 2018年より アウト・オブ・ホーム・メディア局HRMディレクター
- 2020年12月 株式会社電通を早期退職し、本年1月よりニューホライズンコレクティブ合同会社との業務委託契約に移行。IKOI代表。

趣味はクラシック音楽(オーケストラや室内楽でのコントラバス演奏、リコーダー演奏)、クラシックカー、クラシックカメラ、鉄道(全般)、B級グルメ(肉食です・笑)
産業カウンセラー、エコ検定合格、ウェブ解析士、日本唐揚協会会員



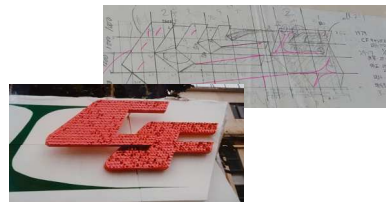
私にとって立高受験そのものが「かなりの背伸び」であったことを否定できない。中学3年夏から(遅すぎだろ!)スパルタ進学塾にジョインして猛烈に勉強し(余りにスタートが遅すぎて後から考えるとマイルストーンどころではなかった)、勢い余って有名私立大学高等学院(!)まで合格してしまっていたが、周囲の反対を押し切って立高を選んだことを後悔していないのは、立高での3年間で今の私を形作っているからである。



1978年
立川高校
入学式
1980年
合唱祭
練習風景

立高で学んだのは「自主自律」、そして「背伸びした目標設定と、マイルストーン(通過点)を置いて計画的に目標を達成する楽しさ」である。そもそも背伸びして立高に入学した私は決して成績優秀ではなく、さらにどちらかと言うとおとなしい性格であったが、立高の自由闊達、自主独立、バンカラな校風は不思議と私にフィットした。1年中何らかの「行事」があり、チームで「優勝」するための計画を自主的に立て、半年間、いつまでにながでできていけばいいか、と言うマイルストーン(通過点)を置いて集団で行動し、成果を得る(たとえ優勝できなくても)こと、成果の要因を分析して次回の防衛(または雪辱)を計画するPDCA(*)を3回(3年間)も回した経験は、気付かないうちに大学受験のみならず、社会に出た時に目標達成の源となっていたのだ。そう、合唱祭・立高祭(水泳大会⇒演劇コンクール⇒文化祭⇒体育祭)全てが「背伸び」と「マイルストーン」で成り立っていたのだ。キャンパスの新聞紙貼りさえもまさにそうだった。

立高2年次に選択したドイツ語の成績が英語より良かったというだけの理由で、大学はドイツ語で受験。しかも第一志望は東京外国語大学ドイツ語学科! 何という無謀な背伸びだと我ながら呆れる程であったが、現役受験をマイルストーン(通過点・笑)とした2年計画で目標達成。4年間はオーケストラ活動に没頭し、就活はこれまたとんでもない背伸びをして当時人気企業だった電通を目標とした。他業種を多数受験(これもマイルストーン)して経済界全体の中での電通の位置づけを自分なりに整理して志望理由を構築し、芯が強く自主性と自律性に富んだ明るい人材を採用しがち(笑)な電通の入社試験をクリアした。



1979年CFキャンパス元設計図(上)
1979年CFキャンパス文字盤(下)

電通での業務は34年に渡り(営業～メディア～人事)、順調であった。「自主自律」と「背伸びした目標設定とマイルストーン」をビジネスでそのまま実践。あとは担当する分野をひたすら好きになって勉強し、周辺の関係者にひたすら話を聞き、取引先よりも詳しくなることで信頼を得、成果も出る一方でありにより仕事が多くなった。資格試験への挑戦も「背伸び」と「マイルストーン」があれば怖くなかった。

忙中閑あり、趣味においても「背伸び」と「マイルストーン」は生きた。難しい曲に挑戦すること、レベルの高いオーケストラに参加すること、よりよい楽器(コントラバスです)を手に入れること、一度は所有してみたかった名機(カメラ)、名車(クラシックカーやスポーツカー)を手に入れること、全ては「背伸び」と「マイルストーン」が解決してくれた。貯金には時間がかかるが、「マイルストーン」があるお陰でそれらを所有する喜びや意義も付いてきた。

そしてこれから

2020年12月31日、私は34年間務めた電通を早期退職した。人事の仕事は非常に充実しており、高い評価も頂いていたが、58歳にしてまた「背伸び」と「マイルストーン」欲が疼き出し、立高での初心を忘れずに新たなビジネスにチャレンジすることにした。人生100年時代と言われるが、それを楽しみ尽くすには定年退職や年金受給という受け身の選択だけでは足りない。さて、明日からどのような「背伸び」と「マイルストーン」を用意しようか・・・今からワクワクドキドキである。

立高の皆さんへ

目標は「背伸び」してこそ価値があり、充足感も格別なものに昇華します。たとえ無理目であったとしても、ゴールに到達するまでの「マイルストーン」があれば、実現可能である、ということをお伝えしたかったので、筆を執りました。ぜひ立高にいたることが、人生の重要なマイルストーンになっていることも忘れないでください。

*PDCAを回す、とは、Plan(計画)・Do(実行)・Check(評価)・Action(改善)を繰り返すことで、生産や品質を継続的に改善する手法